

ひらがなの表、カタカナの表 表紙の次のページ
はじめに 8

この辞典の特色 8

五十音のもくじ 9

この辞典の使い方 10

この辞典で調べられる言葉 14

本文

あいうえお順でさがそう 227

重要な言葉をさがそう 234

なかまの言葉をさがそう 236

「ラム」「とばのひみつ」「もくじ・表紙のひみつ」 裏表紙の前のページ

あ行

あいうえお



青田買い

青菜に塩

あつものに懲りてなますを吹く

あぶ蜂取らず

ありのはい出る隙もない

異口同音

いずれあやめかかきつばた

一部始終

一富士二たか三なすび

一望千里

「里」って何かな？

一網打尽

か行

かきくけこ



快刀乱麻

花鳥風月

勝つかぶとの緒を締めよ

我田引水

からすの行水

閑古鳥が鳴く

間髪をいれず

危機一髪

牛飲馬食

玉石混交

似た意味を表す「ことわざ」

栄枯盛衰

えびでたいを釣る

同じ穴のむじな

帯に短したすきに長し

雲泥の差

雲散霧消

うり二つ

うの目たかの目

うのみにする

うなぎの寝床

雨後のたけのこ

うごうの衆

芋を洗うよう

茨の道

犬の遠ぼえ

糸を引く

一刀両断

一石を投じる

一寸の虫にも五分の魂

一蓮托生

一目置く



あいうえお



わかん

青菜に塩あおな しお

青菜あおな



まじつな



塩しお

青菜に塩をかけるよ…



しおれてしまった！

意味

元気をなくして、しょんぼりするよのため。

解説

「青菜」は、こまつなやほうれんそうなど、こい緑色の野菜のこと。

青菜に塩をかけると、青菜の中にある水分が出て、しおれることから。

使い方

父にしかられた弟は、青菜に塩といった様子だ。

言葉の意味。

言葉の元になっていることがらなど。

言葉を使った文の例。

足を洗う 今までの悪いおこないや仕事をやめて、まじめになる。



あいうえお



わかん

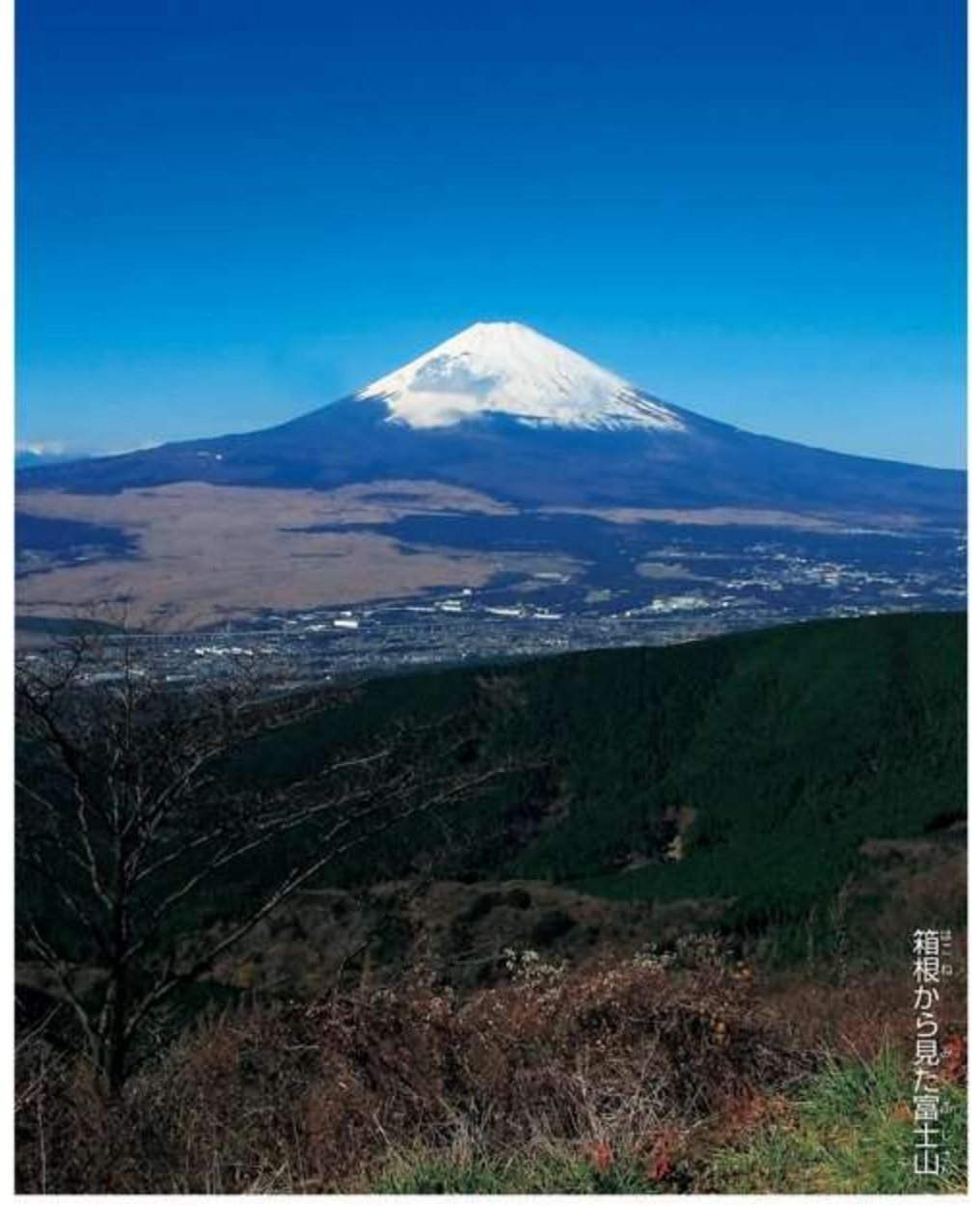


あいうえお
い



わきん

一望千里



箱根から見た富士山

意味

景色が広々としていて、遠くまでながめられること。

解説

「一望」は、ひと目で見たすいじ。

「千里」は、約四千キロメートル。

とても遠いところまで、ひと目で見たすいじのことから。

使い方

一望千里の平原が広がる。

参考

↓29ページ（コラム）。

ひとばのひまじり

「里」って何かな？

● 一望千里 (↓28ページ)

● 五里霧中 (↓93ページ)

● 悪事千里を走る

意味

悪いことをすると、そのつわさは遠くまで、すく伝わる。

意味

千里の道も一歩より始まる
大きな仕事でも、まず小さなことをきちんとするところから始まるいじじのことのたとえ。

四字熟語などでよく使われる「里」は、昔のきよりの単位です。

「一里」は約4キロメートルですから、「千里」は約四千キロメートル、「五里」は約20キロメートルのことで、ともに、とても遠くまでということを表しています。



あいうえお
い



わきん

芋を洗うよう

いも



芋洗い

意味

多くの人（ひと）がいて、混（ま）み合（あ）っている様子（ようす）のたとえ。

解説

たくさん（たくさん）のさといも（いも）を、水（みず）を入（い）れたおけ（おけ）に入（い）れて、棒（ぼう）でかき回（まわ）して洗（あ）う様子（ようす）か

使い方

プール（プール）は、まる（まる）で芋（いも）を洗（あ）うよう（よう）な混（ま）雑（ざつ）だ（だ）。

あいうえお

かきくけこ

けこしせそ

たぢひへ

なぬねの

はひらへほ

まみむめも

やゆよ

びじりる

わかん

あいうえお

かきくけこ

けこしせそ

たぢひへ

なぬねの

はひらへほ

まみむめも

やゆよ

びじりる

わかん

一喜一憂（いっきいちゆう） なりゆき（か）が変（か）わるた（た）びに喜（よろこ）んだり心（こころ）配（はい）したりして、気（き）にす（す）ること。

言葉（ことば）を使（つか）った文（ぶん）の例（れい）。

言葉（ことば）の元（もと）になっ（な）って、い（い）うこ（こ）がら（ら）な（な）ど。

言葉（ことば）の意（い）味（み）。



あいうえお **お**



慣用句

おなじ穴のむじな

むじな
(あなぐま)



ことわざ

帯に短し たすきに長し

たすき 約3メートル

帯 約4メートル



意味

同じ仲間であることのとえ。特に、悪い仲間についていう。

解説

「むじな」は、あなぐまのこと。穴をほって巣を作る。

使い方

不正をかくしていたのだから、あの人も同じ穴のむじなだ。

漢字

同じ穴の貉

同

一つ穴のむじな

意味

ちゅうとはんばで、役に立たないことのとえ。

解説

「帯」は、着物を体にとめるためにまくもの。

「たすき」は、着物のそでをくくるための、ひも。

帯には短すぎ、たすきには長すぎるということから。

使い方

帯に短したすきに長して、ちよつとよい材料がない。

漢字

帯に短し褌に長し

意味

言葉をを使った文の例。

使い方

漢字を使った書き方。

漢字

同義語。同じ意味の言葉。

同

右往左往 人々が、あちらに行ったりこちらに来たりして、うろうろと動き回ること。

ゴマをすする

ゴマをすするよ...



意味

自分が得をするために、相手にくつつき、きげんをとる。

解説

ゴマをするとすりばちで、ゴマがべたべたとくつつくことから。

使い方

先生にゴマをすする。

漢字

胡麻を搗る

参考

92ページ(コラム)。

使 言葉を使った文の例。

漢 漢字を使った書き方。

参 参考になるページや情報。

備 くぎを刺す 後てまちがいが起こらないように、先に強く注意しておく。



触手を伸ばす

触手

くそまてのびへん



意味

自分のものにしてしようとしたり、あることをしようとしていたりして、働きかける。

解説

「触手」は、海の生き物のいそぎんちゃくやくらげなどの、うでのような細長いもののこと。

食べ物をとるときなどに、触手をのびすことから。

使い方

国内だけでなく、海外向けの事業にも触手を伸ばす。

触手

くすん



● 舌を巻く 言葉も出ないほど、とてもおどろいたり感心したりする。

● 言葉を使った文の例。

● 言葉の元になっていることがらなど。

● 言葉の意味。

たがが緩む

たる



たが

意味

張りつめていた気持ちやゆるんで、しまりがなくなる。

解説

「たが」は、たるやおけのまわりにはめてある、わっかのこと。

たががゆるむと、たるやおけの板がばらばらになることから。

使い方

先生がいないと、たがが緩んでだらけてしまう。

漢字

箍が緩む



た

たぢつと

なぐめわの

はひらへほ

まみむめも

やゆや

びじむれろ

わきん

たがをゆるめると...



ばらばら



ばらばら



絶体絶命 追いつめられて、どうすることもできないこと。

漢字を使った書き方。

言葉を使った文の例。

言葉の元になっていることがらなど。

ぬれ手であわ

ぬれた手で
あわにさわると...



あわがたくさん
くつついた!



意味

苦労しないで、たくさんも
つけることのたとえ。

解説

「あわ」は、穀物のあわの
こと。

ぬれた手であわの実をつか
むと、くつついて、たくさ
んつかめることから。

使い方

安く買った土地が値上がり
し、ぬれ手であわの大もう
けになった。

参考

①あわは、石けんの泡のこ
とではない。

②180ページ(コラム)。

漢字

濡れ手で粟

鼻を明かす 相手が油断をしているときに、先にものごとをして、おどろかせる。

漢字を使った書き方。

参考になるページや情報。

言葉を使った文の例。

猫の目のように変わる

明るくときは細長い

ねこ

暗いときは大きく丸い



意味

人の気持ちやものごとの状態などが変わりやすいことのとたとえ。

解説

ねこのひとみは、光の量によって太くなったり細くなったり、変わりやすいことから。

使い方

あの人は気まぐれで、気持ち

ちが猫の目のように変わる。

参考

↓188ページ(コラム)。



焼いた石に水



焼いた石に水をかけても……



すぐには冷めない!



まだ熱い!

意味
少しだけの努力や助けでは、ききめがないことのとえ。

解説
焼いた石に少しだけ水をかけても、すぐには冷めないことから。

使い方
急に勉強したって、そんなの焼け石に水だよ。

- あいついとお
- かきくけい
- たじませき
- たぢひつや
- なごめねの
- はひらへほ
- まみむめも
- やゆよ
- らじるれろ
- わきん

- あいついとお
- かきくけい
- たじませき
- たぢひつや
- なごめねの
- はひらへほ
- まみむめも
- やゆよ
- らじるれろ
- わきん

臨機応変 考えていなかったことが起きても、その時その場所にあったやり方をする事。

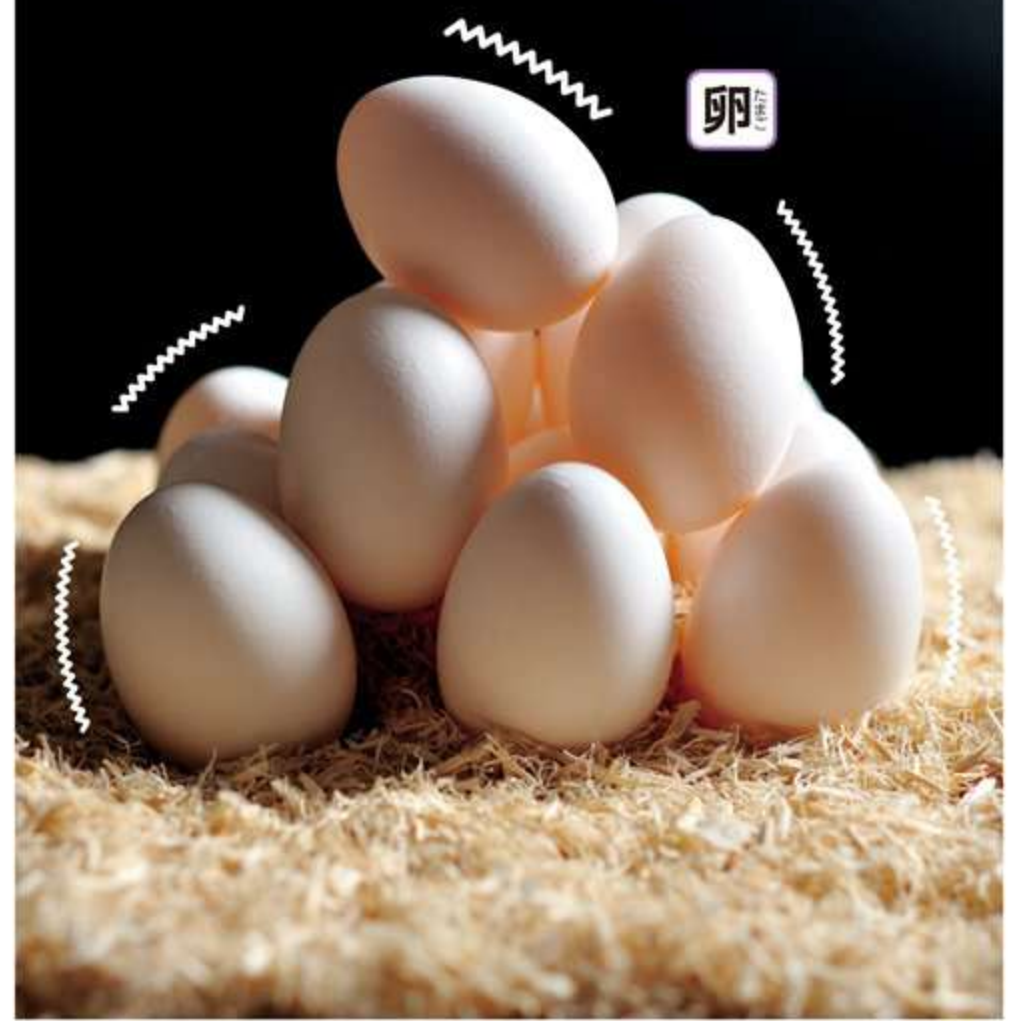
言葉を使った文の例。

言葉の元になっていることがらなど。

言葉の意味。



累卵の危うき



意味 不安定で、危険な様子のたとえ。

解説 「累卵」は、積み重ねた卵のこと。
積み重ねた卵は、くずれやすいつから。

使い方 情勢は累卵の危うきにある。

あいうえお順でヤリがムリ



この辞典にのっている全部の言葉(ことわざ・四字熟語・慣用句・故事成語)を「あいうえお順(五十音順)」に並べました。太い字は写真で説明している言葉、細い字はページの下の「コラム」で説明している言葉です。

相づちを打つ	158	頭をひねる	25	異口同音	24
青田買い	16	あつものに懲りてなますを吹く	20	石の上にも三年	37
青菜に塩	18	あぶ蜂取らず	22	石橋をたたいて渡る	39
悪事千里を走る	29	油を売る	158	医者の不養生	56
悪戦苦闘	17	雨降って地固まる	27	以心伝心	41
揚げ足を取る	159	ありのはい出る隙もない	23	いずれあやめかかきつばた	25
足元を見る	159	暗中模索	29	急がば回れ	139
足を洗う	19	意気消沈	31	板に付く	159
足を引っ張る	21	意気投合	33	一期一会	100
頭を抱える	23	息をのむ	35	一日千秋	101

あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねのはひふへほまみむめもやゆよらりるれるわ
あいうえお順でヤリがムリ

使い方 言葉を使った文の例。

解説 言葉の元になっていることがらなど。

意味 言葉の意味。

重要な言葉をさがそう



写真のページの言葉のうち、最初に覚えるとよい言葉（最重要語）と、次に覚えるとよい言葉（重要語）をまとめました。

最重要語

一寸の虫にも五分の魂	33	一刀両断	36
一部始終	26	花鳥風月	63
異口同音	24	我田引水	65
青菜に塩	18	五里霧中	93
		三寒四温	99
		針小棒大	120
		大器晩成	130
		快刀乱麻	62
		危機一髪	70
		牛飲馬食	71
		玉石混交	72
		虎視眈々	88
		小春日和	89
		山紫水明	102
		順風満帆	114
		枝葉末節	115
		青天白日	127
		反りが合わない	129
		立つ鳥跡を濁さず	136
		たて食う虫も好き好き	141
		ためき寝入り	142
		猪突猛進	147
		月とすっぽん	148
		津々浦々	151
		天変地異	162
		灯台下暗し	164
		ぬれ手であわ	178
		波瀾万丈	198
		明鏡止水	214
		能あるたかは爪を隠す	192
		猫の額	185
		どんぐりの背比べ	170
		電光石火	160
		鶴の一声	154
		朝三暮四	145
		立て板に水	140

重要語

あぶ蜂取らず	22
一望千里	28
一網打尽	30
一目置く	31
犬の遠ぼえ	40
雲散霧消	54
栄枯盛衰	58
えびでたいを釣る	59
帯に短したすきに長し	61

なかまの言葉でやがていつ



からすの行水……………66

画竜点睛……………146

閑古鳥が鳴く……………68

疑心暗鬼……………83

きつねにつままれる……………77

牛飲馬食……………71

欣喜雀躍……………73

くちばしが黄色い……………74

くもの子を散らす……………78

君子はひょうへんす……………80

鯨飲馬食……………82

蛍雪の功……………83

犬猿の仲……………84

虎穴に入らずんば虎子を得ず……………87

この本にのっている言葉を、なかまの言葉ごとにまとめました。

・なかまに当てはまる言葉だけをのせています。

・ページの下のコラムで説明している言葉もあります。

生き物

あぶ蜂取り……………22

ありのはい出る隙もない……………23

一富士二たか三なすび……………27

一寸の虫にも五分の魂……………33

一石二鳥……………100

犬の遠ぼえ……………40

犬も歩けば棒に当たる……………77

井の中のかわず大海を知らず……………76

うごうの衆……………44

うなぎの寝床……………48

うのみにする……………50

うの目たかの目……………51

馬の耳に念仏……………76

えびてたいを釣る……………59

同じ穴のむじな……………60

花鳥風月……………63

かっぱの川流れ……………56

虎視眈々……………88

さぎをからすと云いくるめる……………96

さばを読む……………98

猿も木から落ける……………57

獅子奮迅……………106

尻尾を出す……………119

尻尾を振る……………108

尻尾を巻く……………109

触手を伸ばす……………116

すずめの涙……………131

すずめ百まで踊り忘れず……………125

蛇足……………135

立つ鳥跡を濁さず……………136

たて食う虫も好き好き……………141

ためき寝入り……………142

猪突猛進……………147

月とすっぽん……………148

爪を研ぐ……………153

鶴の一声……………154

鶴は千年亀は万年……………155

てんぐになる……………149

とろろのおの……………166

とどのつまり……………167

捕らぬためきの皮算用……………77

虎の子……………168

飛んで火に入る夏の虫……………174

泣き面に蜂……………57

二兎を追う者は一兎をも得ず……………161

にへもない……………177

猫にかつおぶし……………182

猫に小判……………76

猫にまたたび……………184

猫の手も借りたい……………76

猫の額……………185

猫の目のように変わる……………186

猫はばを決め込む……………190

猫もしやくしも……………191

能あるたかは爪を隠す……………192

馬耳東風……………167

羽を伸ばす……………197

ひょうたんから駒……………202

豚に真珠……………77

目白押し……………217

植物

いずれあやめかかきつばた……………25

一富士二たか三なすび……………27

一蓮托生……………32

茨の道……………41

雨後のたけのこ……………46

うどの大木……………172

うり二つ……………52

花鳥風月……………63